

第29回日本顔学会大会(フォーラム顔学2024)は 大会長)：桐田隆博  
岩手県盛岡市で11月2日(土), 3日(日)開催決定



会場：アイーナ・いわて県民情報交流センター

日本顔学会 第29回日本顔学会大会(フォーラム顔学2024)は、岩手県立大学(桐田隆博大会長)主催で開催されます。

岩手県立大学は、岩手県の歴史や風土、伝統の上に、21世紀の新たな時代を拓く高度な教育・研究の拠点として県民の大きな期待を受けて、「自然、科学、人間が調和した新たな時代を創造することを願い、人間性豊かな社会の形成に寄与する、深い知性と豊かな感性を備え、高度な専門性を身につけた自律的な人間を育成する大学を目指す」ことを理念に掲げて開学しました。(岩手県立大学ホームページ 学長メッセージより)



似顔絵制作：吉村まゆみ

日本顔学会 関西支部

\*\*\*\*\*

2023年8月5日(土)「人を見た目で判断すること:我々は『ルッキズム』をどのように捉えるべきか?」をテーマに、大阪樟蔭女子大学で関西支部第4回研究会を開催しました。日本顔学会会長の菅沼薫先生、米澤泉先生、阿部恒之先生の3名の方の講演の後、「ルッキズムをどう捉えるべきか?」についてパネルディスカッションを行いました。



左から菅沼薫先生、阿部恒之先生、米澤泉先生



パネルディスカッションの様子

関西地域の会員に向けての情報発信を行っていきます。  
独自の視点でのユニークな企画にご期待ください！

支部長：瀬尾 昌孝



似顔絵制作：斎藤忍



関西支部ホームページ

菅沼薫先生:「美容はすべての人に平等に施されるもので、どんな人にも寄りそうもの。だからこそ、これまで美容の中にはルッキズムという考えは存在してこなかった。」というお話、直前にNHKで放送された「自分の見た目が気になるときに読む本」で紹介された本を取り上げ、自分の見た目を気にすることから脱却するには、「ありのままの自分で良い」と思える自己肯定感を持つことが鍵になるのではないかというお話をいただきました。

米澤泉先生:「SNSとSDGsの狭間で-Z世代のルッキズム-」というテーマで、現在のZ世代女子は、「見た目で選んで何が悪か?」という1990年代の価値観と、「見た目で判断するなかれ!」「ありのままの自分で良い」という2010年以降の価値観の両方を持っていて、場面や相手によって使い分けしているように思うという興味深いお話でした。

阿部恒之先生:「ルッキズムと顔学-パフォーマンスという視点-」というテーマで、心理学的、哲学的なアプローチのお話も交え、魅力研究の側面からもルッキズムの解明を試みていただきました。そもそも動物の魅力は、健康な個体を見分ける方法として本能的に備わっているものであるのに、なぜ人間だけが外見至上主義に嫌悪感を感じるのか?というお話をいただきました。

賛助会員 TAKARA BELMONT

私たちタカラベルモント株式会社は理美容サロン・歯科医院で使われるチェアや設備機器、頭髮化粧品などを製造販売しているメーカーです。

フォーラム顔学2023では、顔診断など「顔」に関わる機能を搭載した理美容サロン向けの次世代型ミラー「ECILA」を展示させていただきました。

これからも顔学で得られた知見を、みなさまに使っていただける製品・サービスに展開していきます。

▼フォーラム顔学2023会場にて

▲ホームページ



顔学通信2023編集から

編集長：斎藤忍

顔学通信2023編集委員会では、Adobe Illustratorを使ったことがあるという方を募集しています!

一緒に顔学通信の編集をしてみませんか?興味のあるという方は、右のQRコードのメールアドレスより連絡ください。



似顔絵制作：大野寛武

顔学通信2023

令和5年12月10日発行

編集・発行 日本顔学会

(株)毎日学術フォーラム 日本顔学会事務局  
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1パレスサイドビル 9F  
TEL 03-6267-4550 FAX 03-6267-4555

印刷所 株式会社グラフィック 〒612-8394 京都市伏見区下鳥羽西芹川町33

顔学通信2023

日本顔学会 2023 年の活動報告

INDEX

- ・日本顔学会とは?
- ・会員募集中!
- ・日本顔学会よりご挨拶
- ・学会誌編集から
- ・第28回日本顔学会大会開催報告
- ・顔学オンラインサロン / イブニングセミナー
- ・ニュースレター編集から
- ・新学術領域【顔・身体学】
- ・日本顔学会若手交流会
- ・化粧文化研究者ネットワーク
- ・美人画研究会
- ・第29回日本顔学会大会のお知らせ
- ・日本顔学会関西支部
- ・賛助会員
- ・顔学通信 2023 編集から



日本顔学会  
Japanese Academy of Facial Studies

# 日本顔学会とは？

## ▼『従来の枠組みを超えたネットワークの創造』

日本顔学会ホームページ

1995年3月、顔に関する研究の発展を期し、あわせて「顔学」の普及を図ることを目的に、顔の研究者、顔の研究に興味がある人が結集して、日本顔学会が発足しました。発足後5年の間に、国立科学博物館を中心とした大「顔」展を企画するなど、世界的に見ても類のない、新しいかたちの学会の活動が新たな波紋を社会に投じています。

## ▼顔に関心がある人なら、誰でも会員に！

歯学 工学 美容 心理学 医学 芸術 人類学

既存の学会では考えられなかった異なる分野の方々と構成されています。

歯や歯並びを扱う歯学、コンピュータや機械を扱う工学、美容や化粧品文化学、眼鏡などを扱う分野、顔の魅力や表情の研究を扱う心理学、形成外科、美容外科、解剖学、神経学などの医学、美術解剖学ほかの芸術学・人類学となります。

いかにさまざまな研究分野・職業の方が集まっているかが証明されているようです。従来の枠組みでは不可能だった出会いが「日本顔学会」を通して可能となっています。

## ▼会員募集中！

日本顔学会は、広く「顔学」に関する研究者間の情報交流の場をつくり、これまで単分野では捉えきれなかった学際的な「顔」に関する研究の進歩発展をはかり、われわれの生活向上や人間探求の発展に寄与することを目的としています。

工学、理学、医学、生理学、心理学、社会学、哲学、芸術などのあらゆる分野で「顔」に関連する研究を行っている方、及び「顔」の工学・技術的な面、あるいは生理的、心理的、哲学的、社会・経済的な側面に興味をおもちの方は、是非本学会に御入会下さいますようお願い致します。

日本顔学会は趣味の団体ではありません。一方で、顔に関心があり、顔学の発展に寄与したいと考えている方は誰でも会員になれます。顔の学術的な研究者である必要はありません。



入会案内



オンライン入会申込

## 日本顔学会よりご挨拶

平素より日本顔学会にご協力いただきまして、ありがとうございます。日本顔学会では、今年度2023年1月より発行する学会誌やニュースレターを電子化いたします。会員の方は、ホームページから閲覧、ダウンロードができるようになります。そして、2023年より活動内容をすべての会員にお知らせする「顔学通信」を、年1回印刷発送いたします。2023年度も様々な興味深いイベントが開催されました。なお、学会のホームページには活動内容や学会誌、ニュースレターなどが掲載されています。

WEB環境が整わずオンラインで閲覧できない方には申し訳ありませんが、運営の健全化のためでございます。ご理解いただけますようお願い申し上げます。

今後とも日本顔学会の活動にご支援、ご協力をいただけますよう、お願い申し上げます。

日本顔学会 会長  
菅沼 薫



似顔絵制作：阪西明子



## 学会誌編集から

「日本顔学会誌」は「日本顔学会」の会誌として、大会抄録と論文誌の年2回、刊行されます。

編集長：山口真美



似顔絵制作：橋本憲一郎



日本顔学会誌ホームページ

### 【オンライン顔学会誌サービス】

オンライン顔学会誌閲覧サービスを開始しました。

現在、試行中のため、会員外の方でも閲覧可としております。

日本顔学会誌は「日本顔学会」の会誌として、大会抄録と論文誌の年2回、刊行されます。2015年度より2冊に分かれて発刊されることとなりました。

日本顔学会誌第23巻2号は以下の1又は2の要項に従い募集された論文です。

1. 会員の研究成果に基づく『学術論文』および『研究ノート』（査読有り）
2. 顔研究にとって資する内容の『トピックス』、『解説論文』、『招待論文』、『特別寄稿』、および会員からの意見や提案『読者の声』

当学会は顔をキーワードにした異分野文化の研究交流の場であるため、記事の構成、書式、体裁も可及的にそれぞれの文化に沿ったスタイルを受け入れることを原則とします。

学会誌は会員には無料で配布されるほか、希望に応じて頒価で販売されます。

## 【日本顔学会誌第23巻2号論文】J-STAGE

各論文は2023年12月末までに公開予定です。それまでは「準備中」になりますので、ご了解ください。



巻頭言  
顔認知手法を用いた「おもてなし」の研究  
著者：柿木隆介



顔の部位別コントラスト操作が魅力・女性性・健康感評価に及ぼす影響  
第一著者：向井田真衣



口の大きさの異なる顔が美しいと評価される目・口の配置  
第一著者：宋涵



逆相関法を用いた「有名人の面影のある子ども顔」の可視化の試み  
第一著者：大原貴弘



アイラインの色が目と目を模した図形の知覚的な大きさに与えた影響  
第一著者：岩敷友梨加



唇の見た目年齢に影響する要因  
第一著者：松下戦具



男性顔画像と女性顔画像の部分遮蔽が年齢推定に与える影響  
第一著者：大野朝香



似顔絵を科学するⅡ 人の感性をコンピュータ上で集約して似顔絵を描く技法の開発  
第一著者：橋本憲一郎



アイシャドウの色の好みに関わる脳活動：fMRIによる検討  
第一著者：木村孝行



顔表情による映像酔い評価に向けて油圧ショベル運転シミュレータによる模擬遠隔操作環境での検討  
第一著者：竹内大樹

## 【日本顔学会誌第23巻1号】

※右のQRコードからアクセス後、パスワードを要求されます。パスワードは会員の方に同封の総会資料に記載されていますので、そちらをご確認ください。

第28回日本顔学会大会（フォーラム顔学2023）の大会のプログラムは、『人々のための顔～顔の技術と社会受容性』をテーマとして、一般講演（口頭・ポスター発表）、特別講演、実演展示、シンポジウムにより、2日間にわたって構成されています。口頭発表23件、ポスター発表19件からなる一般講演、作品展示9件が行われました。本号では、これらの大会要旨集を収録しています。



日本顔学会誌第23巻1号

## 【日本顔学会誌第22巻2号論文】J-STAGE 検索結果

本号は、顔学会ならではの多彩な分野の依頼論文中心の、学びの会誌となりました。これも顔学会でしかできないことと思います。

しかしながらその裏事情について触れますと、本号はコロナによる研究活動制限の影響もあってか、投稿論文数が少ない現状でした。次号（23巻2号）では逆行をむしろ生かすべく、関係諸学会に投稿案内をお送りした結果、多くの論文も集まり、顔学会の宣伝の場としても有効だったように思っています。

日本顔学会誌第22巻2号  
目次（検索結果）

# 第 28 回日本顔学会大会 (フォーラム顔学 2023) 開催報告

第28回 日本顔学会大会（フォーラム顔学2023）は、盛会にて終了いたしました。現地・オンラインにて参加された方々、ご発表、ご参加くださった全ての皆様に感謝申し上げます。

今大会では口頭発表23件、ポスター発表19件からなる一般講演、作品展示9件、特別講演では、NECフェローである今岡 仁先生（NEC）より「生体認証技術の進化と価値創造」、トリチャーコリンズ症候群の当事者である石田 祐貴先生（筑波大学）から「社会的に異形な顔貌を巡って」という内容でご講演頂きました。

なお、各賞受賞者は以下の通りです。

【オーディエンス賞・口頭発表部門】O2-2 顔の形状変化-姿勢変化に伴う“うつむきジワ”- 清澤はな・今井健雄・市橋俊希・内山雅普（花王株式会社）

【オーディエンス賞・ポスター発表・作品展示部門】P2-3 時代ごとのアイドルの顔分析とバーチャルアイドルの生成 遠藤洋・高橋伸太郎・清水詩央里・蜂須賀智美・熊谷凜々子・中村明日香・遠藤理紗・箕浦百花・篠田矢奈（明治学院大学）・永田毅（筑波大学）

【原島賞】O4-1 女性の配偶戦略と男性平均顔の脱男性化との関連についての検討 高橋征仁（山口大学）

【興水賞】O2-1 顔画像の解像度間で生じる魅力評定値の差に関連する顔の三次元特徴 大石貴矢・岡部伊織・楊曉光・濱中祥弘（ポーラ化成工業(株)）・川畑秀明（慶應義塾大学）・水越興治（ポーラ化成工業(株)）

大会長：鈴木健嗣



似顔絵制作：宇田川のり子

以下写真撮影：福富 大介



つくばカピオ口頭発表会場入口



菅沼会長による開会の挨拶



鈴木大会長挨拶



ホワイエでのポスター展示



特別講演1 今岡 仁 先生



特別企画セッション2（顔の技術）



特別講演2 石田 祐貴 先生



特別企画セッション3（顔の社会受容性）



原島先生はオンラインで原島賞発表



興水先生による興水賞の発表



オーディエンス賞  
（口頭発表部門）表彰式



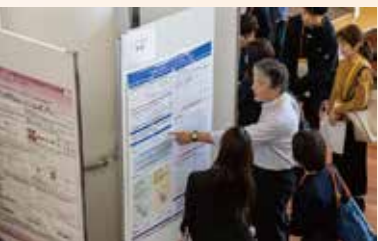
オーディエンス賞  
（ポスター発表・作品展示部門）表彰式

◀顔学会ならではの似顔絵コーナー



フォーラム顔学 2023 ホームページ

◀美人画研究会作品展示



ポスターを説明する  
次回大会長の桐田先生



イブニングシンポジウム



★フォーラム顔学2023についてはニュースレター83号で紹介しています。右ページのQRコード「83号ダウンロード」からご覧いただけます。

## 顔学オンラインサロン

顔に関心のある方にもしかしたら役に立つかもしれない情報を紹介します。



オンラインサロン

顔学オンラインサロンは夕食後に気軽に、顔そして顔学について語り合う場です。毎回各専門分野多くの方に参加していただき、顔というテーマに対しての色々な角度からアプローチされた、様々な意見や研究結果を発表し、議論する場になっています。

左のQRコードは、日本顔学会オンラインサロンのページです。過去の話提供一覧を掲載しています。右下のQRコードは参加申し込みフォームです。非会員の方の参加も歓迎します。

以下は、2023 年後半の顔学オンラインサロンです。

- ▼第48回 2023年7月11日（火）「集中線は驚きを強めるーマンガ表現の心理学」  
話題提供者：本多明生氏（静岡理工科大学情報学部准教授）
- ▼第49回 2023年8月8日（火）「テーマ：顔学と私・顔学会について思うこと」  
話題提供1：金知栄（キム・ジヨン）（京都芸術大学・大学院・修士2年）  
「絵本における群衆の表現」等  
話題提供2：奈部川貴子（美容ジャーナリスト等）顔のリフレクソロジー、表情マッサージ等
- ▼第50回 2023年9月12日（火）「フォーラム顔学 2023 の見どころ！聴きどころ！」  
話題提供者：鈴木健嗣（筑波大学・フォーラム顔学大会長）
- ▼第51回 2023年11月7日（火）「顔の記号性/記号としての顔」  
話題提供者：福本直之氏（グラフィックデザイナー/有限会社 Imageon CEO）



第59回イブニングセミナーの様子  
（講師：押田良機先生）

### イブニングセミナー

コロナ禍で開催ができませんでしたが、2年ぶりの2022年10月11日、対面で「顔法への招待」として押田良機先生（インディアナ大学）にご講演いただきました。

顔法とは表情で味覚や痛みなどの種類や程度を示す記号的に顔を用いたもので、その展開をお話しされ、今後も活用が期待されるものでした。

対面でのイブニングセミナーは貴重ですので、サロンとは別に形を変え、会員の情報交換や懇親の場にできないかとも考えているところです。

～対面での人と人とのコミュニケーションはやはり大切～

## ニュースレター編集から

J-FACE  
NEWS LETTER



ニュースレターの最新号、バックナンバーを、ここからダウンロードできます（PDF）。

2023 年は以下3号の発行をしています！  
81号【いい顔とは何か？／図書紹介など】  
82号【フォーラム顔学 2023 特別講演など】  
83号【フォーラム顔学 2023 開催報告など】



81号、82号

「ニュースレター」は、顔学会にまつわる各種活動・情報を紹介する会報です。

1996年3月発行の第1号より年3回、学会員向けに提供してきましたが、2019年よりPDF公開版として非会員の皆様にも楽しんでいただけるようになりました。

編集長：光廣可奈子



似顔絵制作：宇田川のり子



光廣可奈子 新木美代 高野ルリ子 中洲俊信 富澤 洋子 牛山園子 福浦友香 米澤泉（協力） 松永 伸子（協力） 山南春奈（協力）

ニュースレター編集委員会ではメンバー募集中です！

# 新学術領域【顔・身体学】



トランスカルチャー状況下における顔身体学の構築  
—多文化をつなぐ顔と身体表現

FACE & BODY  
▲領域ロゴ  
製作: 陣内利博氏  
(武蔵野美術大学)

代表：山口真美



似顔絵制作：小河原智子



顔・身体学とは、研究組織、活動状況、成果等、国立国会図書館が保存した2023年3月31日時点の顔身体学のページです。

# 化粧文化研究者ネットワーク

代表：北山晴一



似顔絵制作：大岡立

化粧文化に関する研究会開催と情報交換を通じて、  
化粧文化研究の深化発展と若手研究者の奨励をめざす。

## ▼化粧文化研究者ネットワークとは？

化粧行為は私たちの日常生活に深く根づいていますが、化粧あるいは化粧文化に関する研究はこれまで長い間、学問的認知が十分でなかったために、研究上の困難は並大抵のものではありませんでした。また、研究者の層もなかなか厚くなりませんでした。

当ネットワークは、日本における化粧文化研究の草分けだった故・村澤博人(初代表、元大阪樟蔭女子大学教授・元日本顔学会副会長)の呼びかけのもとに、化粧や化粧文化に関する研究者を中心としたネットワークの形成を行ない、2005年3月に研究活動を開始しました。

現在は北山晴一代表(立教大学名誉教授、文化ファッション大学院大学客員教授)を中心に計10名の世話人と20名ばかりの会員が集まり研究活動を展開しています。

## 第63回研究会「プリントシール機を通して見る若年女性の顔文化」▶

7月1日、フリー株式会社を訪問し、プリントシール機を体験。その技術開発を担っている小林潤一氏からお話を伺った。

講演では、はじめにプリントシール機の仕組みを説明いただき、次いで撮影と画像処理のこだわりを中心にお話をいただいた。

照明の配置は顔を魅力的に見せるためのノウハウの塊であること、開発者によって社内でもスタイルや個性が出るることについて教えていただいた。画像処理に関しては、多くの場合に目の拡大などに着目されがちだが、繊細な画像処理を重ねてプリントシールは出来上がる。

ディスカッションでは、これからのプリントシール機の展開などに関する議論が行われた。現在のプリントシールは若者世代の文化であるが、中心的ユーザーである若者世代の人口が減少するなか、プリントシールの文化的な「文脈」から一旦離れた人や文脈を共有しない外国人などをどのように取り込み、価値づけしていくかは興味深いテーマだと考えられた。



最新のプリントシール機で遊ぶ体験  
は大変面白く何度もメンバーを入れ  
替えながら撮影した。



ディスカッションの様子

過去の研究会の内容  
化粧文化関連の書籍を紹介  
お問い合わせ等



化粧文化研究者ネットワーク  
ホームページ

# 日本顔学会若手交流会



代表：高橋翠



似顔絵制作：高橋エツコ



Whats New、活動報告詳細、  
メンバープロフィール、  
研究実績、メディア掲載等  
日本顔学会若手交流会  
ホームページ

顔学の未来を築く若手による気軽な交流・議論の場として  
2012年11月に発足した、日本顔学会の公認サークルです。

## ■日本顔学会若手交流会とは？

日本顔学会若手交流会は、顔学の未来を築く若手による気軽な交流・議論の場として2012年11月に発足した、日本顔学会の公認サークルです。

同じ「顔」という対象に興味・関心を持ちながらも普段はなかなか接点を作ることができない異分野の若手研究者や顔に関わる実践家がメンバーとなり、定期的に活動しています。

「若手交流会に参加することにより、新たなつながり、知見、刺激が得られ、モチベーションの向上につながった」という声があがっています。

## ■参加資格は？

「自称若手であること」「自己紹介資料を作成すること」の2点です(非学会員も可)。

## ■活動内容は？

主な活動は、定期交流会、交流会メンバーでの有志活動、メールでの議論です。既存の枠にとらわれない独創的な研究活動と、一般の人々に顔学の面白さを伝えるアウトリーチ活動を展開し、顔学を「深める」「広める」ことを目指して活動しています。



2023年6月4日(日)第30回定期交流会の様子



2023年8月26日(土)第31回定期交流会の様子

# 美人画研究会

美しさ表現して描かれた人物絵画、版画、イラスト、  
写真などを対象とした研究発表を行なっているサークルです。

「美人画」とは女性美をモチーフに描かれた浮世絵や日本画を指すことが一般通念となっていますが、当研究会では広義に解釈して、西洋画やイラスト、写真までも含めた多様な人物画を研究対象としています。

発足は2014年で、日本顔学会会員の松永伸子(クリエイティブグループ)と浮世絵研究者の畑江麻里(アカデミックグループ)の2名が、共同で開催し研究発表できる場を持つことを目的に始めたサークル活動です。専門的な研究機関というよりもむしろ「美人画を楽しむ」ことを大切に、様々なジャンルの方が参加し交流できる場を提供しています。



▲7月2日:「味覚を感じる美人画」をテーマとしたクリエイティブ研究会を開催しました。昨年の「聴覚を感じる美人画」からの継続企画です。



▲10月14～15日:フォーラム顔学2023に作品展示で参加。テーマは「ボーダーレスな美人画」で、肌の色やジェンダーの境界をなくした作品を展示しました。



▲10月31日:顔学会連携Zoomミーティング「おいしい顔はどんな顔？」を開催し、様々な表情の紹介と意見交換ができました。

11月26日:「触覚を感じる美人画」をテーマとしたクリエイティブ研究会を開催。(写真はホームページ参照)

クリエイティブグループ  
代表：松永伸子



似顔絵制作：吉村まゆみ



研究会の内容、活動報告等  
美人画研究会ホームページ